

ネット動画配信サービス 隆盛への課題

Netflix (ネットフリックス) 今秋上陸で活気づくか



✓ 日本テレビ
「日テレ無料! (TADA)」
サービス

✓ Hulu
会員100万を突破して
見えてきたこと

✓ PTP
テレビを楽しむ新しいサービス
「SPIDER」

1997年にオンラインDVDレンタルビジネスを始め、2007年からPC向けストリーミングサービス「Watch Instantly」をスタートしたNetflix (ネットフリックス)。現在、50カ国に約6,200万人 (2015年5月現在) の会員を抱える世界最大のネット動画配信サービス事業者が今秋、日本に上陸する。フジテレビはいち早く動き、6月17日に「オリジナルコンテンツを共同制作し供給」することをNetflix株式会社のグレッグ・ピーターズ代表取締役社長とフジテレビの大多亮常務取締役が揃って会見した。

「世界一の事業者が日本に上陸」を黒船到来になぞらえる論調もある一方、日本のネット動画配信を活気づけるチャンスにしたいという声も聞こえる。

(レポート: 吉井 勇・本誌編集長)



フジテレビとNetflixが共同制作を発表。写真右がNetflix日本代表のグレッグ・ピーターズ氏とフジテレビ常務取締役の大多亮氏

一足早く『デアデビル』を視聴

Netflixは「フリーダム (自由) とレスポンス (責任)」を自らのカルチャーとする。そしてNetflix日本代表のグレッグ・ピーターズ氏は「気軽にオフィスへどうぞ」と話す。さっそくNetflix自慢のオリジナルコンテンツの一つで、「日本でヒットする」(ピーターズ代表) というマーベルコミック原作の盲人弁護士が巨悪と戦う4K作品『デアデビル (原題)』シリーズを見るために表参道の日本オフィスを訪ねた。受付もなく、訪問カードの記入もなく、自動ドアの前につただけで入ることができるオープンさは歓迎らしい。

今年のCES (全米家電ショー) やNAB (全米放送業大会) をまわった本誌ツアーで、連載筆者のテッド若山氏にNetflixなどのOTTサービスを体験・解説してもらったが、会場にしたラスベガスにあるホテルのスイートルームの通信環境が最悪で、「クルクルマーク」が出るばかりだった。ということもあって日本のブロードバンド通信下でのNetflix体験と、何よりも早くマーベルの『デアデビル』

を観たかったからだ。

通信環境は日本オフィスからアメリカをVPN回線で結び、アメリカのNetflixを体験でき、テレビは85型液晶、5.1サラウンドというベストに近い視聴スペースが用意されている。『デアデビル』の第1話を観た。面白い。大画面でCMがないので映画感覚で楽しめ、Netflix事業の原点であるレンタルDVDを視聴している感覚だった。

Netflixサービスの特長

Netflixはハリウッドの大作をはじめ、世界中の映画やテレビドラマ、ドキュメンタリー、コメディの他に、独自制作のオリジナル作品を月額定額制の低料金 (米は7.99ドル、

8.99ドル、10.99ドルの3コース) で提供し、HDか4Kの高画質で配信する。当初、PCのデバイスへの提供で始まったサービスは、Xbox360やPS3、BDプレーヤーなどを介してテレビでも視聴できるようになり、さらにiOSやAndroidでも利用できるようになった。

実際にアクセスすると、5つのファイルが用意されているので、家族一人ずつの専用ファイルへアクセスができる。そして、Netflixの最大特長である「あなた好みのコンテンツ」を案内するレコメンドで構成されるため、Netflixのオフィシャル画面は見当たらない。いきなり「あなた専用」となり、「視聴すればするほど」あなた好みが続り上げられる「ぬか床」サービス (こういう表現がわかる世代が視聴するかな) なのである。

日本のNetflixが自慢の一つは、リモコンに「Netflix」と書かれたボタンを用意したことだ。日本のテレビメーカー、シャープ、ソニー、東芝、パナソニックの4大メーカーの協力を得たのだから、Netflixのアクセスルートとして鍛え上げたいに違いない。

フジテレビが共同制作に一番乗り

日本のテレビ局や映画会社、動画配信サービスは、Netflixをどう迎えるようとしているのか。一つは、Netflixが力を入れるオリジ